

平成14年度 高等学校教育課程実施状況調査報告書の概要

英語 I

1. 今回の調査結果の特色

(1) ペーパーテスト調査の結果の概要

ア 全般的な状況

英語 I においては、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計は、52問中36問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。

イ 内容・領域、観点等からみた特色

(ア) 内容・領域「聞くこと」について

「聞くこと」については、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が20問中12問で、全体の問題数の半数以上を占めている。

これを出題のねらい別にみると、「応答問題」、「詳細理解問題」、「概要・要点理解問題」のうち、「詳細理解問題」及び「概要・要点理解問題」（問題の構成については別紙参照）については、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの合計が該当する問題の半数以上となっている。しかしながら、「応答問題」については、下回ると考えられる問題数が半数を超えている。

なお、出題のねらい別にみたこの結果は、中学校における各学年ごとの調査結果と同様となっている。

このようなことから、「聞くこと」については、英語を聞いて詳細を理解することや概要・要点を理解することはある程度できるが、話しかけの内容や意図をとらえて適切に応答する力は十分ではないと考えられる。例えば、A¹(3)で誤答を選んだ生徒は、Can I use your dictionary? (あなたの辞書を貸してもらえますか。) という話しかけが依頼の意図で使用されていることが理解できていないと考えられる。また、B¹(1)で誤答である解答類型2を選んだ生徒は、Why don't we take a walk in the park? (公園を散歩しませんか。) という話しかけが勧誘の意図で使用されていることが理解できていないと考えられる。

(イ) 内容・領域「読むこと」について

「読むこと」については、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が18問中16問で、全体の問題数の半数以上を占めている。

これを出題のねらい別にみると、「詳細理解問題」、「概要・要点理解問題」、「談話構造理解問題」及び「言語使用知識理解問題」の全てにおいて、設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が該当する問題の半数以上となっている。

なお、このことについては中学校における調査結果と一部分で異なっているが、全体的に見れば、ほぼ同様の結果となっている。

このように「読むこと」に関する通過率は、どの問題でも設定通過率を上回ると

考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が該当する問題の半数以上となっている。「読むこと」について詳細にみると、内容を整理して読んだり、概要や要点を適切に把握したりするような読み方はよくできているが、英文を細部にわたり正確に読み取る力は弱いと考えられる。英語を理解するための基本的な語彙や構文が定着していないことがその理由の一つとして考えられる。さらに、自分の知っている語、見慣れた表現など、一部の情報にとらわれ、全体の流れの中でそれがどういう意味をもつのか的を得ずに読み取れない傾向がある。

(ウ) 内容領域「書くこと」について

「書くこと」については、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が14問中8問で、全体の問題数の半数以上を占めている。

これを出題のねらい別に見ると、「トピック指定問題」、「条件指定問題」、「文構造理解問題」のうち、「条件指定問題」及び「文構造理解問題」については、通過率が設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるものの問題数の合計が該当する問題の半数以上となっている。

なお、「書くこと」については、中学校における調査とは異なる結果となっている。中学校が三つの問題タイプともに通過率が設定通過率を下回ると考えられる結果となったのに対して、高等学校では「トピック指定問題」の通過率のみが設定通過率を下回る結果となっている。高等学校における「英語Ⅰ」では、中学校における英語の学習を踏まえながら、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の学習に取り組むこととされている。そのため、学年が進むにつれて「書くこと」に関する英語の学習に必要な文型や文法の整理が進み、中学校とは異なる結果になったと推測される。

また、通過率が設定通過率を下回ると考えられる、内容を考えて英語で書く「トピック指定問題」について、無作為に抽出して回収した調査票の分析をした結果、複数の文を書くことはできるが、内容的にまとまりのある一貫した文章を書くことができないといった点がみられる。このことに関し、「高校生活で最も楽しかったこと」(問題B[8])で、事例を一つあげる。

I enjoyed playing basketball. For I was bad at it, but I was gradually good at it. I wish I played again. I will continue to play basketball.

この事例では「バスケットボールはうまくなかったが、だんだんうまくなっていったので、これからも続けようと思っている。」ということ述べようとしたのではないかと推測できるが、文を接続するために用いた接続詞 for, but の使用に誤りがあり、明確な理由を示すことになっていないので、全体としては、まとまりがある文章にはなっていないと考えられる。

「書くこと」については、ある条件が付された中でふさわしい語句を考えて書くこと、短い文を書くこと、あるいは正しい語順で文を書くことはある程度できるが、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力は十分ではないと考えられる。

なお、「トピック指定問題」や「条件指定問題」のように、内容を表す表現を自分で考えることが求められる問題(A冊子, B冊子とも各4問)で4問とも無解答であった生徒が、A冊子で17%程度、B冊子で16%程度いた。

(エ) 観点別結果について

「関心・意欲・態度」については、ペーパーテストでは、「書くこと」における「トピック指定問題」(全2問)を用いて、書かれた文の数をもとに推測した。「4文以上で書きなさい」という指示に対して5文以上で書いた生徒を「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を強く示したものととらえた場合、A $\boxed{8}$ で27.3%、B $\boxed{8}$ で25.1%と、約3割の生徒が該当していると考えられる。

また、無解答の割合はA $\boxed{8}$ では24.5%、B $\boxed{8}$ では29.1%であり、約4分の1の生徒が無解答であった。

「表現の能力」については、「書くこと」の領域の問題をもとに推測した。設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数の合計が14問中8問で、全体の問題数の半数以上を占めている。

「理解の能力」については、「聞くこと」及び「読むこと」の領域の問題をもとに推測した。設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数の合計が38問中28問で、全体の問題数の半数以上を占めている。また、下回ると考えられるもの10問のうち、「聞くこと」は8問、「読むこと」は2問である。

「知識・理解」については、言語についての知識・理解に焦点を当て、「読むこと」の「談話構造理解問題」、「言語使用に関する知識理解問題」及び「書くこと」の「文構造理解問題」をもとに推測した。設定通過率を上回ると考えられるもの又は同程度と考えられるもの問題数の合計が14問中10問で全体の問題数の半数以上を占めている。

なお、今回の調査においては「話すこと」に関する直接の出題は行っていないが、「書くこと」に関する「内容を考えて英語で書く」問題の調査結果を踏まえると、「話すこと」についても同様の課題があると推測される。

(2) 質問紙調査の結果の概要

ア 生徒質問紙でみた場合について

「英語の勉強が好きだ」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒は40.1%であり、平成13年度中学校の調査の結果を合わせてみると、この数字は、中学校第1学年から学年が進むにしたがって減少する傾向にある。

一方、「英語の勉強は大切だ」という問いに対して肯定的な回答をした生徒は83.1%であり、中学校の第3学年の84.6%と大きな変化はない。

さらに、「英語を勉強すれば私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ」、「英語の勉強は、入学試験や就職試験に関係なくても大切だ」、「英語を勉強すれば、国際的な視野を広げることができる」という問いについても、肯定的な回答がそれぞれ62.4%、77.1%、78.5%であり、英語あるいは英語学習の重要性についての認識は、「英語の勉強が好きだ」という問いに対する肯定的な割合に対して高く、中学校と比較できる問いについても大きな変化はない。

イ 生徒質問紙と教師質問紙でみた場合について

「外国の人々の言葉、文化、暮らしについて学ぶ学習」については、生徒の「好きだった」が44.3%、教師の「生徒が興味を持ちやすい」が87.7%となっており、生徒と教師の間で意識の違いが見られたが、このことは中学校調査でも同じ結果となっている。

2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

(1) 「聞くこと」について

相手の言う内容を聞き取ることにはある程度できるものの、相手の言う内容や意図を十分にとらえて適切に応じることができない状況がうかがわれる。今後は、一つの言語形式が場面や状況の違いによって様々な意図を表現するということを理解させ、それに対する適切な応答ができるような指導を充実させることが重要である。

また、複雑な流れの会話に慣れさせるために、会話例を使って練習したり、インタビュー活動において相手が言ったことを確認したり、聞き取れなかったことを聞き返すような、話すことも含めた指導の充実が重要である。

(2) 「読むこと」について

基本的な語彙や構文等の意味や用法を文脈を通して身に付けさせる指導を一層進める必要がある。さらに、できるだけ多くの英文に親しませ、要点を押さえながら読んだり、文脈や文法を手掛かりとして意味を推測しながら読む力を身に付けさせる指導を進めていく必要がある。

(3) 「書くこと」について

あるテーマについて、いくつかの質問をして、その答えをつなげてパラグラフにまとめさせる練習をさせたり、日本語で話し合った後、各自の考えをまとめて、英語で表現させたりする指導などが効果的である。また、読んだ教材などを題材にして、あらかじめ必要な語句や文の数を指定して感想文などの文章を書かせるなどの指導を充実させることが重要である。さらに、「表現の能力」を高める手立てとして、「話すこと」と「書くこと」の活動を組み合わせることにより、話したり、書いたりする機会を十分に与え、話す力と同時に書く力を向上させることが大切である。

○ 補足資料：テスト・デザインの作成

各セットに共通するテスト・デザインを作成し、さらに、テスト項目の作成方法を細部に規定した。これは、セット間による差を少なくし、テストの信頼性を高めるためである。

○ Aセット・Bセットを構成する問題タイプの概要・考え方

問題領域	問番号	各問題の簡略名	問題のねらい
聞くこと	1	応答問題	英語での話しかけに応答する
	2	詳細理解問題	英語を聞いて内容の詳細を理解する
	3	概要・要点問題	英語を聞いて内容の概要・要点を理解する
読むこと	4	詳細理解問題	英語を読んで内容の詳細を理解する
	5	概要・要点問題	英語を読んで内容の概要・要点を理解する
	6	談話構造理解問題	英語を読んで文章の流れを理解する
	7	言語使用知識理解問題	書き手の意図を理解する
書くこと	8	トピック指定問題	内容を考えて英語で書く
	9	条件指定問題	指定された状況や文脈に応じた内容を書く
	10	文構造理解問題	与えられた英語を用いて正しい語順で書く

【問題例】英語 I A 1

学習指導要領の内容：言語活動 ア 聞くこと

(ア) 問題

A1 (テープ問題)

英語による話しかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを1～4の中から一つ選び、その番号を□の中に書きなさい。話しかけは2回くり返します。

(3) <学校で友人と>

- 1 Sure. Here you are.
- 2 Yes, I'm using it.
- 3 Yes, it's a dictionary.
- 4 Sure, I can.

(3)

(テープ音声)
 F: This story is very difficult. Can I use your dictionary?
 繰り返します。

(イ) 今回の結果

問題番号	設問のねらい	評価の観点	問題形式	通過率 (%)	設定通過率 (%)
A 1 (3)	英語での話しかけに応答する	理解の能力	選択	47.4	65 (60～70)

(注) 設定通過率と調査結果の通過率を比較するに当たっては、設定通過率を中心に上下それぞれ5%の幅を設け、この幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度と考えられるもの」、その幅を超えていれば、「設定通過率を上回ると考えられるもの」、その幅に達していなければ、「設定通過率を下回ると考えられるもの」とした。() は、その数値の幅を示している。

(ウ) 解答類型及び反応率

問題番号	解答類型		反応率 (%)
A 1 (3)	1と解答しているもの	◎ 1	47.4
	2と解答しているもの	2	16.6
	3と解答しているもの	3	18.0
	4と解答しているもの	4	17.5
	上記以外の解答	9	0.0
	無解答	0	0.5

◎正答

【問題例】英語 I B 8

学習指導要領の内容：言語活動 エ 書くこと

(ア) 問題

B

8 これまでのあなたの高校生活を振り返って、最も楽しかったことは何ですか。その理由も含めて、英語で4文以上のまとまりのある文章を書きなさい。ただし、最初の文は I enjoyed に続けて書き始めなさい。

I enjoyed

.....

.....

.....

(20)

(注：解答欄は13行用意してあった。)

(イ) 今回の結果

問題番号	設問のねらい	評価の観点	問題形式	通過率 (%)	設定通過率 (%)
B 8	内容を考えて英語で書く	関心・意欲・態度 表現の能力	記述	20.2	45 (40~50)

(注) 設定通過率と調査結果の通過率を比較するに当たっては、設定通過率を中心に上下それぞれ5%の幅を設け、この幅に収まっていれば、「設定通過率と同程度と考えられるもの」、その幅を超えていれば、「設定通過率を上回ると考えられるもの」、その幅に達していなければ、「設定通過率を下回ると考えられるもの」とした。() は、その数値の幅を示している。

(ウ) 解答類型及び反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)
8	<p><ねらい>内容的に一貫した文章を構成する力，及び書こうとする意欲をみる。したがって，綴り・格変化等の誤りは意味が理解できれば許容するものとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作業の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5文以上書いてある： 文章の構成 ○ → 1 文章の構成 × → 2 ・ 4文書いてある： 文章の構成 ○ → 3 文章の構成 × → 4 ・ 3文以下しか書けていない：内容を問わず → 5 ・ 上記以外の解答 → 9 ・ 無解答 → 0 </div> <p>----- 文章の構成が良いもの -----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の観点をすべて満たすものとする。 ①明確な理由が述べられている。 ②単なる文の羅列に終始することなく，順序よく書かれている。 ③内容理解に支障をきたすような，語順・時制等の誤りがないもの。 ①～③は，下記[留意]①～③に対応。 	
	<p>5文以上書いてあり，文章の構成が良いもの。</p> <p>例：I enjoyed the school trip to Hokkaido (best), because I had a good time skiing there. I had never skied. In fact, I was very bad at skiing. I couldn't move at all with skis on. But our teachers taught us how to ski, so I was able to ski by the end of the trip.</p> <p>[留意] ①理由がきちんと述べられている(必ずしも because を用いる必要はない)。</p> <p>②文と文をつなぐ工夫がみられ，順序よく書かれている。</p> <p>③内容理解に支障をきたす文法上の誤りがない。</p> <p>※以下のような誤りは理解に支障がないので許容する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ー, because → ー. Because (理解できる because の使い方の誤り) ・ skiing → sking (理解できる綴りの誤り) ・ bad at → bad of (理解できる前置詞の誤り) ・ school trip (冠詞等が落ちている) 	◎ 1 11.9
	<p>5文以上書いてあるが，文章の構成が悪いもの。</p> <p>例：I enjoyed the school trip. We went to Hokkaido. We went there by plane. We visited Sapporo. We stayed Sapporo for two days.</p>	2 13.2

<p>[留意] ①明確な理由が述べられていない。 例：I enjoyed the school trip. I enjoyed it with my friends. Hokkaido was big. Hokkaido was very cold. I like seafood.</p> <p>[留意] ②文の羅列に終始している。 例：I enjoyed the school trip to Hokkaido. Because I <u>have</u> a good time skiing. I <u>want</u> to ski but I <u>have</u> never skied. Our teachers <u>teach</u> us how to ski. I'm a good skier next winter.</p> <p>[留意] ③時制に誤りがあるため、文章全体としては意味が理解できない。</p>		
<p>4 文書いてあり、文章の構成が良いもの。 例：I enjoyed the school trip to Hokkaido (best), because I had a good time skiing there. I had never skied. In fact, I was very bad at skiing. But our teachers taught us how to ski, so I was able to ski by the end of the trip.</p> <p>[留意] ①理由がきちんと述べられている(必ずしも because を用いる必要はない)。 ②文と文をつなぐ工夫がみられ、順序よく書かれている。 ③内容理解に支障をきたす文法上の誤りがない。 ※以下のような誤りは理解に支障がないので許容する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ー, because → ー. Because (理解できる because の使い方の誤り) ・ skiing → sking (理解できる綴りの誤り) ・ bad at → bad of (理解できる前置詞の誤り) ・ school trip (冠詞等が落ちている) 	◎ 3	8.3
<p>4 文書いてあるが、文章の構成が悪いもの。 例：I enjoyed the school trip. We went to Hokkaido. We went there by plane. We went to Sapporo.</p> <p>[留意] ①明確な理由が述べられていない。 例：I enjoyed the school trip. I enjoyed it with my friends. Hokkaido was big. Hokkaido was very cold.</p> <p>[留意] ②文の羅列に終始している。 例：I enjoyed the school trip to Hokkaido. Because I <u>have</u> a good time skiing. I <u>want</u> to ski but I <u>have</u> never skied. Our teachers <u>teach</u> us how to ski.</p> <p>[留意] ③時制に誤りがあるため、文章全体としては意味が理解できない。</p>	4	15.3
<p>3 文以下しか書けていないもの。</p>	5	20.2
<p>上記以外の解答</p>	9	1.9
<p>無解答</p>	0	29.1

◎ 正答